

平成21年6月11日

農林水産省政策評価会林野庁専門部会委員から出された主な意見

平成21年6月8日(月曜日)に開催された農林水産省政策評価会林野庁専門部会において、「平成20年度実績評価」等について委員から以下のような意見が出された。

<平成20年度政策の実績評価について>

- ・ 森林の機能のうち、例えば水土保持機能とCO₂吸収についての評価を間伐実績で行っていることなど、一般的にはわかりにくい表現があり、工夫が必要ではないか。
- ・ 林業の労働生産性の低下については、その要因について精査する必要があるのではないか。

<平成21年度政策の実績評価の目標設定について>

- ・ 政策、施策、目標、指標の関係が整理され、全般的には昨年よりは分かりやすくなっているが、一部では目標と指標の整合性を図る必要や、数値や用語が分かりづらいところは表現を工夫した方がいいのではないか。
- ・ 農林水産省全体の施策の位置づけについて、例えば森林の場合は上流から下流、海まで関わりがあることから、評価で省内の横の連携を図る必要があるのではないか。
- ・ 哺乳動物による森林被害については、多面的機能の観点から、実績評価書に掲載すべきではないか。
- ・ 森林の多様な利用について、森の子くらぶ活動は小中学校などへの周知がまだ不十分であり、森林環境教育という面では学校林活動なども見た方がいいのではないか。また、国民参加の森林づくりについては、森林づくり活動の内容も見ていく必要があるのではないか。
- ・ 山村においては社会資本としての路網に着目した指標を考えられないか。その場合、林道のみならず農道や町村道と連携して考えることはできないか。